

【第7回ワクワクながつかつかとうべえ祭り実行委員会】

廣兼 孝信(委員長)(広島文化学園短期大学学生部長・コミュニティ生活学科教授)
桑本 義弘(副委員長)(祇園町商工会顧問)
山城 武之(祇園町商工会理事)
原 祐司(祇園町商工会理事)
竹野 彰吾(祇園町商工会監事)
福永 積(長束地区社会福祉協議会会長)
山本 高公(少年を育む安佐南区民の会会長)
平松 孝一(平松花店オーナー)
西谷 義則(西川町内会会長)
森 隆司(芦田屋自治会会長)
倉本 憲明(長束地区社会福祉協議会委員、芦田屋自治会員)
岡本 紀久美(少年を育む安佐南区の会事務局)
井上 豊(日本キリスト教会広島長束教会牧師)
石田 咲乃(広島文化学園短期大学コミュニティ生活学科2年)
奥井さとみ(広島文化学園短期大学コミュニティ生活学科2年)
富田 量子(広島文化学園短期大学コミュニティ生活学科2年)
中倉あやめ(広島文化学園短期大学コミュニティ生活学科2年)
中田 涼葉(広島文化学園短期大学コミュニティ生活学科2年)

【オブザーバー参加】

栗原 圭太(中電工人事労務部)
千田 慶豊(井辻食産株式会社営業部課長)
石津 秀典(公益社団法人広島北法人会祇園支部会長)



ワクワクながつかとうべえ祭り 一口メモ

【開催の経緯】

2012(平成 24)年 3 月から、広島文化学園大学・短期大学、長東地域の関係者、祇園町商工会で「長東駅前通り活性化方策検討委員会」(委員長:廣兼孝信コミュニティ生活学科教授)が組織され、長東駅前通りの活性化について議論を重ねました。それと並行して、保育学科の田頭セミナーの学生が通りの空き店舗を利用して赤ちゃん連れのお母さんに役立つ企画をしたいと考えていました。

そこでその企画を中心としたお祭りのイベントを実施しようということになり、2012(平成 24 年)の 11 月に「第 1 回ワクワクながつかとうべえ祭り」を開催しました。

「とうべえ」のネーミングは、「果能舎」という私塾を蓮光寺内に開き、JR長東駅前通りの近くにある長東小学校(明治7(1874)年開校)の初代校長となった“藤井東兵衛”先生の名前に由来しています。「子育て支援」を中心とするイベントの趣旨とぴったり合うことから採用されました。

【開催のあゆみ】

2013(平成 25)年の第 2 回からは、地域の方と短期大学の学生で実行委員会を結成し、学生主体で準備を進める形で開催しました。

また第 2 回から、コミュニティ生活学科の学生(松重涼花さん/2014(平成 26)年 3 月卒業/山口県立岩国総合高等学校出身)が考案した“とうべえ”のキャラクターデザインを採用しました。

2014(平成 26)年の第 3 回から、メイン会場を長東小学校体育館とし、広島文化学園大学・短期大学の学生たちが様々な企画を展開できるようになりました。

2015(平成 27)年の第 4 回から、コミュニティ生活学科の学生(奥田梨乃さん/2017(平成 29)年 3 月卒業/広島県立熊野高等学校出身)が制作した祭りのロゴを採用し、ポスター、幟、ブルゾン(写真)、告知用横断幕などで使用することになりました。

また第 4 回から、長東中学校吹奏楽部の生徒さんが開会式直後のオープニング演奏を行い、祭りの雰囲気盛り上げています。

2016(平成 28)年の第 5 回から、読書が好きだったと伝えられる“藤井東兵衛”先生にあやかって、「絵本のリサイクル」を始めました。長東小学校、長東西小学校、長東中学校、長東幼稚園、長東保育園の協力の下、家庭でいらなくなった絵本や児童書を提供してもらい、それを読みたい子どもに無料で持って帰ってもらうという企画です。毎年 300 冊以上の本が集まり、多くの子どもや保護者の方に喜んでもらっています。



【補助金の交付】

これらの活動が評価され、2015(平成 27)年に広島市が地域の活性化を推進する事業「区の魅力と活力向上推進事業補助金交付」に採択され、1 年目 196,000 円、2 年目 99,000 円、3 年目 41,000 円の補助金交付を受けました。